

タブレットの貸出しを伴う講習会等の取組の検討状況について

タブレットの貸出しを伴う実践型講習会(区事業)、スマートフォン体験会(東京都事業)及びスマートフォン相談会等(区・都・区内団体事業)の令和4年度の実施状況と実施状況を踏まえた令和5年度以降の取組の検討状況について、以下のとおり報告する。

1 令和4年度の事業の実施状況

(1) タブレットの貸出しを伴う実践型講習会(区事業)

主にフューチャーフォンやスマートフォンの画面が小さく、文字の判読・入力や動画の視聴に不満や不安を感じている60歳以上の区民に対して、区が主催する実践的な講座を通じて、その特長について啓発するとともにICT機器やその利活用に対する区民の不安解消や理解促進を図った。また、約3か月の講習会の実施期間において、タブレット(データ通信のみ)の貸出しを行った。

【令和4年度実績】

定員	申込者数	受講者数	60代	70代	80代	最年少	最高齢
60名	127名	58名	18名	35名	7名	60歳	86歳

※参加者のアンケート結果は、別紙のとおり

タブレットの貸出しを伴う実践型講習会の満足度は平均で8割を超え、タブレットの貸出しがあったことや講師とサポーターの体制について評価を得た。また、普段スマートフォンを使用している方が参加者の約8割を占めたが、タブレットの方がより使いやすいと感じた方が7割を超えた。使いやすい主な理由は、文字や文章が読みやすい、映像が見やすい、地図が見やすいといった順に選択した人が多く、画面が大きいタブレットの特長が生かされている。

(2) スマートフォン体験会(東京都事業)

スマートフォンを所有していない又は使い慣れていない60歳以上の都民に対し、東京都の事業を活用して不安解消を図るとともに利活用のきっかけづくりを行っている。希望者に対して、体験会終了後1か月の端末(電話番号付き)貸出しを行っている。

【令和4年度実施状況（10月末まで）】

開催回数	募集者数	申込者数	受講者数
9回	170名	延べ144名	延べ78名

東京都の事業開催決定スケジュールと、なかの区報掲載スケジュールが合わず、なかの区報掲載による広報が困難であったため、申込者数が少なく、定員に満たない開催回が多くなった。なお、なかの区報に掲載して募集した10月開催分には定員を超える応募があった。

(3) スマートフォン相談会等（区・都・区内団体事業）

スマートフォンを所有しているが使用方法に不安を抱えている又はより積極的に活用したいと考えている区民に対して、利活用に向けた相談支援等を行っている。

ア 区が主催するスマートフォン・タブレット相談会

【令和4年度実施状況（10月末まで）】

開催回数	定員	参加者数	参加率
10回	252名	延べ80名	31.7%

イ 東京都と共催するスマートフォン相談会

【令和4年度実施状況（10月末まで）】

開催回数	定員	参加者数	参加率
9回	156名	延べ42名	26.9%

ウ シルバー人材センター及び専門学校東京テクニカルカレッジと共催するパソコン教室やスマートフォン教室

【令和4年度実施状況（10月末まで）】

	開催回数	定員	参加者数
シルバー人材センター	9回	54名程度	59名
テクニカルカレッジ	2回	40名	35名

区が主催するスマートフォン・タブレット相談会は、なかの区報等での周知を行っており、参加率は31.7%であった。

東京都と共催で実施しているスマートフォン相談会は、スマートフォン体験会（東京都事業）と同様に、なかの区報に掲載することが困難であった

め、参加率は26.9%と区事業よりも低かった。なお、令和4年11月20日から東京都事業を活用した定期的な相談会の実施を中野区役所において予定しており、事業の認知度の向上とあわせて参加者数の増加を見込んでいる。

区内団体と共催しているスマートフォン教室等は、これまで毎年定期的に実施しており、参加者も例年同様に多い状況にある。

2 令和5年度の取組の検討状況

(1) タブレットの貸出しを伴う実践型講習会（区事業）

タブレットの貸出し及び実践的な内容に対して、受講者からの評価が高かったため、令和5年度の事業を拡大する方向で検討をしている。上半期及び下半期にそれぞれ1グループ10名、各8グループずつ実施し、合計約160名の募集を行うことを検討している。

なお、本事業については、令和4年度から令和6年度まで東京都子供・長寿・居場所包括補助事業補助金（補助率10/10、補助上限あり）の交付が内定している。

(2) スマートフォン体験会（東京都事業）

中野区役所及び区民活動センターにて継続して実施するための調整を東京都と連携して行う。

(3) スマートフォン相談会等（区・都・区内団体事業）

ア 区事業

令和4年度の実績や東京都事業と差別化できないことを踏まえ、令和5年度は都事業との一本化を検討している。

イ 東京都事業

継続して実施するための調整を東京都と連携して行う。区民活動センターを中心に開催するとともに、今後の事業成果を踏まえながら、中野区役所における定期的な相談会の開催についても引き続き調整をする。

ウ 区内団体事業

シルバー人材センター及び専門学校東京テクニカルカレッジと調整を図りながら令和5年度以降の継続的な実施に向けて調整を行う。

(4) 広報手段の充実

なかの区報による広報が参加希望者に対して効果的であることから、東京都の事業開催決定の前倒しを要望するなどの調整を引き続き行う。

また、なかの区報以外の広報については、これまでの区民活動センターへのポスター掲示などに加えて、より人が多く集まる、駅へのポスター掲示など、区報以外の広報手段の充実についても合わせて検討を行う。

タブレットの貸出しを伴う実践型講習会アンケート結果

1 講習会の満足度

1日目	2日目	3日目	平均
89.7%	82.6%	79.6%	84.0%

2 講習会を知ったきっかけ

区報	生涯学習大学	チラシ
70.7%	13.8%	6.9%

3 普段使っている端末(複数選択可)

スマートフォン	パソコン	シニア向けスマートフォン
45人/58人	28人/58人	8人/58人

4 普段端末の使い方を聞ける人

いる	いない
56.9%	43.1%

5 区の情報取得する手段【複数選択可】

区報	町会・自治会等の掲示板	区民活動センターや高齢者会館
45人/46人	8人/46人	7人/46人

6 貸出端末の使用頻度

ほぼ毎日	週に3,4回	ほとんど使っていない
30.6%	22.4%	16.3%

7 講習会のよかったところ【複数選択可】

タブレットの貸出があった	講師以外のサポーターがいた	タブレットの講習会だった
44人/49人	36人/49人	31人/49人

8 普段使っている端末よりタブレットは使いやすいか

使いやすい	どちらでもない	使いにくい
73.5%	16.3%	10.2%

9 タブレットの使いやすい主な理由

文字や文章が読みやすい	映像が見やすい	地図が見やすい
31人/36人	28人/36人	24人/36人

10 タブレットの使いにくい主な理由

持ち歩きにくい	スマートフォンの機能で十分
3人/5人	3人/5人